

～ 約150年前の鉄道橋が現在も道路橋として活躍～ 大宮橋が「現存する国内最古の鉄道橋」として土木学会選奨土木遺産に認定！

令和8年9月24日
大阪府 道路環境課
岸和田土木事務所

大阪府が管理する一般国道170号の大宮橋が、公益社団法人土木学会の「選奨土木遺産」に認定されました。
大阪府が管理する土木施設として初の認定となります。



現在の 大宮橋



昭和6年6月15日 大宮橋渡初式

■大宮橋の概要

- ・ 所在地：大阪府泉南郡熊取町大宮
- ・ 路線名：一般国道170号
- ・ 架設年：昭和6年(1931年)
- ・ 構造形式： 錬鉄製ポニーワーレントラス
- ・ 橋 長：21.6m
- ・ 幅 員：6m

■大宮橋の歴史

- ・ 明治7年(約150年前)に開業した神戸～大阪間の鉄道の橋梁としてイギリスから輸入された70フィート(約20m)のワーレントラス桁を、昭和6年に大宮橋に転用し、以降、今日まで現役の道路橋として供用されている国内最古の鉄道橋であることが判明。

ワーレントラス橋とは

トラス橋とは部材を三角形に組んだ構造を組み合わせて構成する橋梁で、斜材の組み方によりいくつかの形式があり、方向の違う斜材を交互に配置する形式をワーレントラス橋といいます。

